

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 穴生 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問調査

児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

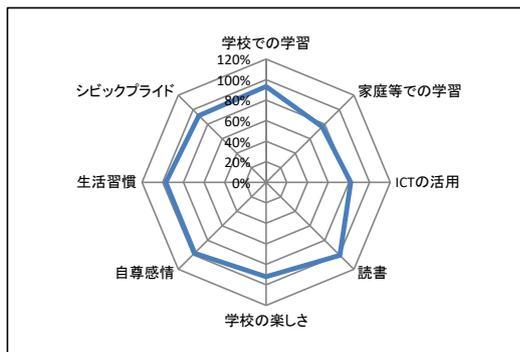
(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	○「情報の使い方に関する事項」と「話すこと・聞くこと」については、全国平均をやや上回っている。しかし、「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「読むこと」については、課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる。	
	努力が必要な問題	○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる。	

算数	全体的な傾向や特徴など	○「測定」の内容については、全国平均を上回っている。しかし、「データの活用」や「変化と関係」の内容については、課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	○異分母の分数の加法の計算をすることができる。 ○二つの数量の関係に着目し、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できる。	
	努力が必要な問題	○二次元の表から条件に合った項目を選ぶことができる。 ○角の大きさについて理解している。	

理科	全体的な傾向や特徴など	○「知識・技能」の内容について課題がある。特に、「生命を柱とする領域」や「エネルギーを柱とする領域」の内容については、課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	○赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、土と水の量を正しく設定した実験方法を発想し、表現することができる。	
	努力が必要な問題	○レタスの種子の発芽の条件について差異点や共通点を基に新たな問題を見だし、表現することができる。 ○赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができる。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析

○「人に役に立つ人間になりたいと思う。」や「自分には、良いところがあるとと思う。」等自尊心に関する領域と「朝食を毎日食べている。」「毎日、同じくらいの時刻に起きている。」等生活習慣に関する領域については、肯定的な回答が90%を上回っており、心の育ちについて教科・領域等の学習活動を通して、継続して取り組む。

○「読書は好きですか。」の肯定的な回答が88%で全国平均を大きく上回っている。休み時間には、図書室を開放し、閲覧したり、朝学習で10分読書をしたりして継続して取り組んでいる。

全国平均を100としたときの本校の割合

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○朝学習や学カアップタイムを活用し、読書活動や基礎学力の定着を図る。
○「穴生小スタンダード」を活用し、全校でベクトルを合わせて授業を実践するとともに、各自が「授業の振り返りシート」で自己評価をすることで授業の改善に努める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○望ましい生活習慣や家庭学習について、学校通信、テトル等で保護者へ発信し啓発を図る。「早寝・早起き・朝ごはん」の定着と児童の継続的な取組みを称賛し、主体的な学びを高められるようにする。
○「家庭頑張り週間」を毎月1回設定し家庭学習の定着を図るとともに、取組みを見直し、改善しながら、更なる充実に努める。